

II 第68次調査

第68次発掘調査はボーリング場建設に伴なう緊急調査として、平城宮東院の南に接する宮外地で実施した。すでに第44次調査で確認された坊間大路西側溝の南延長に沿って、幅10m、長さ50mの南北トレンチを設定した。検出した遺構は建物8棟・柵4条・木樋暗渠2条等であった。

遺構は大路西側溝SD5870の西では、柵・建物の建てかえが非常に多いため、当初溝に沿ってあったと推定される築地塀の痕跡は認められなかった。

SB6545は桁行7間以上、4面庇かとみられる。溝と重複しているが、遺構の検出状況からみると、溝と同時期の可能性もある。他の建物はすべて東側柱、又は妻柱を築地推定線より西へ収めて建てており、柵は築地推定線の上に設けている。溝より東の大路路面からはトレンチ中央部と南端に2本の東西方向に路面を横断する木樋暗渠SD6552と6553が検出された。南の暗渠はSB6545より新らしい。

出土遺物には多量の瓦・土器・木簡などがある。軒瓦は6282-6721型式・6311-6664型式などが多く、他に、鬼瓦・三彩施釉瓦片が出土している。土器も殆んどが8世紀中期以後のもので、墨書土器には「東隅」「南隅」「東南」「東北隅」など何等かの位置を示すと思われるものがある。木製品では大形の堅櫛・斎串・胡桃形の木印が出土した。これらの他に、和銅開珎・萬年通宝・神功開宝・麻布・漆膜片（「宝亀二年」の墨書あり）・木簡・木材断片（「綿侶釘」の員数墨書あり）などがある。